

めぐみイエス・キリスト教会

2020年2月2日(日)第一主日礼拝
週報「通算第492号」



2020年標題聖句

第Iテサロニケ5章16節~18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時~11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時~7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分~7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2020年2月2日 第一主日礼拝
第一礼拝 午前10時 第二礼拝 午後6時
司会 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん
◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌265「世人の咎の為に」	p. 416
【交読文】	No.49 イザヤ書第40章	p. 918
【賛美Ⅱ】	新聖歌222「罪の深みに」	p. 336
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナルNo.17 「父なる神の愛」	
【聖書朗読】	ヨハネの福音書21章12節～14節	
【祈 禱】		
【説 教】	《朝の食事》 鈴木 竜実 牧師	
【聖 餐 式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」	p. 236
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

●ポイント1. 主イエス様が現われた一回目と二回目の時とは？

※マルコの福音書16章14節「後世における補遺文書」(新約p.105上段)

16:14 その後イエスは、十一人が食卓に着いているところに現れ、彼らの不信仰と頑なな心をお責めになった。よみがえられたイエスを見た人たちの言うことを、彼らが信じなかったからである。

※ヨハネの福音書20章26節～29節「復活から八日目」(新約p.228下段)

20:26 八日後、弟子たちは再び家の中におり、トマスも彼らと一緒にい

た。戸には鍵がかけられていたが、イエスがやって来て、彼らの真ん中に立ち、「平安があなたがたにあるように」と言われた。

20:27 それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、私の手を見なさい。手を伸ばして、私の脇腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」

20:28 トマスはイエスに答えた。「私の主、私の神よ。」

20:29 イエスは彼に言われた。「あなたは私を見たから信じたのですか。見ないで信じる人たちは幸いです。」

※ヨハネの黙示録3章20節「ラオデキヤの御使いへ」 (新約p.496上段)

3:20 見よ、私は戸の外に立ってたたいている。だれでも、私の声を聞いて戸を開けるなら、私はその人のところに入って彼と共に食事をし、彼も私と共に食事をする。

●ポイント2. 朝の食事とは何か？

※マタイの福音書6章8節～11節「主の祈りの教えから」 (新約p.9下段)

6:8 「ですから、彼らと同じようにしてはいけません。あなたがたの父は、あなたがたが求める前から、あなたがたに必要なものを知っておられるのです。

6:9 ですから、あなたがたはこう祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。御名が聖なるものとされますように。

6:10 御国が来ますように。み心が天で行われるように、地でも行われま

6:11 私たちの日ごとの糧を、今日もお与え下さい。」

※マタイの福音書4章4節「主イエス様の悪魔への答え」 (新約p.4上段)

4:4 イエスは答えられた。『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』と書いてある。」

●ポイント3. 主イエス様の約束とは？

※マタイの福音書6章31節～34節「山上の垂訓から」 (新約p.11上段)

◎先週のメッセージの概要【再びガリラヤへ(破れなかった網)】

《今週からヨハネの福音書に戻ります。最後の21章にはいります。

イエス様は巡礼の道において受難予告を三回なされ「私はあなたがたより先にガリラヤへ行きます。」と弟子たちに伝えていきます。

また復活されたイエス様が、女たちに託した伝言は「行って、私の兄弟たちにガリラヤに行くように言いなさい。」との事でした。この後、十一使徒が向かった場所は、ガリラヤ伝道拠点となったペテロの家でした。数日後、弟子たちは二手に分かれます。ペテロとトマス、ナタナエルとゼベダイの子らを含む七人は漁に行き、四人は待機します。しかし、その夜は何も捕れませんでした。

イエス様がガリラヤ宣教を始められた頃に、ペテロと弟アンデレ、ヤコブとヨハネは、大漁の奇跡を体験したのです。その時には、おびただしい数の魚が入り、網が破れそうになったのです。

そして二回目は、「子どもたちよ、食べる魚がありませんね。舟の右側に網を打ちなさい。そうすれば捕れます。」との言葉を聞き、そこで彼らは網を打ったのです。すると153匹の大きな魚で、網は一杯でした。それなのに網は破れていなかったのです。主が網を守られたからです。網とは仕事、職業、生活の事を指しています。

弟子たちが岸边に着くと、そこには何と主イエス様が弟子たちの食事を用意されておられました。食事は十分にありましたが、しかしあえて、捕れた獲物を持って来るようにも言われたのです。

それは、彼らが捕って来た魚は、本当は必要ないことを教えられたのです。主は「山上の垂訓」において、「ですから何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと言って、心配しなくてよいのです。まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。」と教えられました。このことが真実であることを、弟子たちに証明されたのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は、通常通り2月9日(日)です。また2月23日(日)の第四礼拝は、お休みします。次回「聖書の学びと祈り会」は、2月5日(水)です。